



みよしの自然



NPO 法人 みよしの自然環境を守る会
会報 第23号 2026.3.1

1. 黄金色の里地で！みんなで稲刈り

愛知教育大学の学生さんと市民親子の皆さんが協力し、手作業での稲刈りを行いました。鎌を使って一株ずつ丁寧に刈り取り、心地よい汗を流しました。今回、小雨で濡れた稲を今では見かけなくなった“はざかけ”をしました。天日で乾かすことになりました。



刈り取った稲が湿っているため急ぎよ“はざかけ” (10月11日)

稲刈り、カマを使った体験(10月11日)

2. 学びの場としての里地 ～生きもの観察～

サツマイモ掘りをした後、野原で昆虫観察をしました。私たちの活動する里地は、子どもたちが身近な自然環境の大切さを肌で感じ、豊かな生物多様性を学ぶことができる、非常に優れたフィールドです。学生さんが子どもたちに優しく解説する姿も見られ、世代を超えた学びの場となりました。



バッタやクモ、大学生のお姉さんにみてもらおう (10月18日)



収穫したサツマイモ(10月18日)

写真資料
リンク



NPO 法人みよしの自然環境を守る会

いっしょに活動する仲間 会員募集中 → 詳細は、公式ホームページ
メール・お電話にて 090-6746-7240 (担当/ヤマモト) miyoshino4000@gmail.com



3. 秋の恵みを満喫！11月15日は境川の源流域の里地で収穫祭



収穫したサツマイモをたき火で焼き、熱々の焼き芋をみんなでほおばりました。また、刈り取った稲わらを使った「なわない」体験や、木の実などを使ったリース作りも行い、里地・里山の恵みを五感で楽しみました。



木の実や綿花などと、「なわない」からリース作り(11月15日)



あつあつの焼きいも(11月15日)

シリーズ 「みよしの宝物」

トウカイコモウセンゴケ

名前が示すように、この植物は東海地方から近畿地方にしか分布していません。生育地が限られ個体数も少ないため、多くの地域で絶滅危惧種に指定されています。

痩せた粘土質の湿地に生えていて、虫を食べて栄養分の一部を補給する小さな食虫植物です。葉っぱに生えたヒゲ(繊毛)の先からねばねばした汁(粘液)が出ていて、そこに触れた小さな虫を動けなくして捕え消化するのです。

みよし市では境川源流域の湿地や里山裾の水がしみだしている崖にひっそりと生えています。5月～8月に小さなピンクの花が咲く頃、葉が鮮やかな赤色になります。花が終わる真夏過ぎからは葉が少しずつ緑色になり、そのまま冬を過ごします。1年を通して観ることができる貴重な植物です。



生きもので溢れる境川に……県政への声

愛知県議会議員の林 文夫氏からは、本会の活動への支持とともに、県が管轄する境川の将来について心強いお言葉をいただきました。

林氏からは「境川を単なる河川としてではなく、魚が棲み、子どもたちが川に入って遊べる『学びの場』にしていきたい。将来、自然工法による改修が検討される際には、それを市民の手で守り育てていく持続可能な活動こそが極めて重要になる」との視点を示していただきました。

NPO 法人みよしの自然環境を守る会は、そのような未来の役割を担えるよう、今から着実に準備を進めてまいります。



収穫祭で語る 林 文夫議員 (11月15日)



NPO法人みよしの自然環境を守る会

理事長 鳥居 謙一
事務局 愛知県みよし市三好町木之本10 (鈴木正輝宅)
電話 090-6746-7240 (担当/ヤマモト)

miyoshino4000@gmail.com

<https://www.npo-miyoshino-shizen.com>



いっしょに活動する仲間 会員募集中 → 詳細は、公式ホームページ又はメール・お電話にて